

平成29年度第1回大人のためのブックトークを開催しました

平成29年5月27日（土）、今年度最初の「大人のためのブックトーク」を開催しました。昨年度に引き続き、情報科学芸術大学院大学（IAMAS）の小林昌廣教授による、熱く楽しいトークが行われました。

小林昌廣 IAMAS 教授によるブックトーク



<当日紹介された本>

「随筆 本が崩れる」

草森紳一 文春新書（2005年）

天井まで届く本の山。本がないのは湯舟くらい、という著者の家。何の弾みか、家の一角で崩落が始まった、脱衣所に積まれた本にまで及んでしまう。ちょうど浴室に入っていた著者は、本によって浴室から出ることができなくなり……。

お風呂場からの脱出劇が綴られた楽しい一冊。

「勉強の哲学 来たるべきバカのために」

千葉雅也 文藝春秋（2017年）

勉強とは自己破壊。勉強が怖いと思うのは、自分を変えることが怖いから。

刺激的な言葉とともに、勉強の手法を示す一冊。

「雨のことば辞典」

倉嶋厚監修 講談社（2000年）

『驟雨』、『蛙目隠し』、『木通（あけび）腐らし』——日本には、雨を表す言葉が数多く存在する。そして、雨が降る、雷が鳴ることを表現するオノマトペも日本ならではの。気象予報士の倉嶋厚さん監修の元、雨に関する季語や方言など様々な言葉を集めた一冊。

岐阜県図書館 近藤由季江司書によるおすすめ本の紹介



「心に緑の種をまく」

渡辺茂男 新潮社（1997年）

「未来を変えた島の学校」

山内道雄・岩本悠・田中輝美
岩波書店（2015年）

「南方熊楠菌類図譜」

南方熊楠著 萩原博光解説
ワタリウム美術館編集 新潮社（2007年）

○感想等

- ・近くブックトークを行うことになり、参考にと参加しました。まずは本そのものへの理解が大切で、それがあからこそ相手に“読みたい”と思わせる力ができるのだなと思いました。大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ご紹介いただいた本の面白さが伝わり、興味深く聞かせてもらえました。
- ・小ネタをはさみながらの語りがとても面白く、楽しく聞かせていただきました。2冊目の本を読んでみたいです。
- ・堅苦しくなく、ゆるりとした雰囲気楽しくお話を聞くことができました。また参加してみたいと思います。
- ・おもしろいお話でした。
- ・「本を読む」ということは、自分の中の自分の存在に気付かせる客観物的行為ではないか。きょうのトークを聞いてそんな感じをもった。